



市長記者会見資料
平成25年4月2日
経営企画部都市経営課

アクティブシニア構想の策定について

・市民エネルギーあふれるまち ～市民ひとりひとりが、打ち込めるものをもつ～

1 構想の目的

団塊の世代を中心としたシニア世代の方が、これまでの知識や経験、人脈等を最大限に活かし、ひとりひとりが何か打ち込める活動をもつことで、地域活動、地域経済の活性化、市民交流の拡大を通し、地域社会全体の活力向上を目指す。

また、この構想から「共創」の取り組みへとつなげていくことをねらいとする。

2 構想の主な内容

上記の目的に向かって、施策のターゲットを設定し、高岡のもつ強みを活かしながら、施策展開を図るものとなっている。

施策展開の柱として、「人づくり」、「活躍の場づくり」、「シニアで賑わうまちづくり」を示し、さらにそれらを補完する共通施策として、「情報を共有するしくみづくり」を掲げている。

(資料1：高岡市アクティブシニア構想体系図、資料2：高岡市アクティブシニア構想)

3 策定までの取り組み

次のような取り組みを通じて検討を重ねながら、構想策定に取り組んできた。

- (1) アンケート調査 6月～7月 2,500人に照会、1,016人の回答
- (2) ヒアリング調査 9月～10月 上記調査回答者のうち30名に実施
- (3) アクティブシニア懇談会
 - ・第1回 10月12日 ・第2回 11月20日 ・第3回 2月6日
- (4) パブリックコメント 3月5日～3月18日 (寄せられた意見：23件)

4 今後の進め方

- (1) この構想の市民への周知を図る。(市HPで公表、市広報5月号で特集記事を掲載、高岡ケーブルテレビの番組でPRする。)
- (2) 市の施策全般についても、この構想の趣旨を踏まえながら、各所管において、既存事業の見直しや新事業への取り組みを図る。

※ (H25年度事業)

- ・ケーブルテレビの番組でアクティブシニアの活動を紹介
- ・コミュニティビジネスを始めるための情報を伝える実践講座の開催
- ・セカンドライフセミナーの開催 など

担当：都市経営課都市政策担当
電話 20-1226 (内223)

高岡市アクティブシニア構想体系図

資料1

【施策のターゲット】

- ① 年齢が概ね50代半ば以上で、様々な活動に既にチャレンジしている人や、しようとする人の行動意欲を引き出す
- ② 世代別人口構成の最も大きい層であるシニア世代の方々の消費力や活動力を活かす
- ③ 県外の都市部等での勤務を終え、地元である高岡に戻ってきたい、あるいは、地方で高岡ならではの暮らしをしたいというニーズにこたえる

【高岡の強み】

- 歴史・文化的な資産が多い
- ものづくりに代表される産業基盤を有している
- 市民活動が盛んである
- 交通の利便性が良い
- 富山県第2の都市として中核的な都市機能を有している

【目指す将来像】

市民ひとりひとりが、打ち込めるものを持つ
 市民エネルギーあふれるまち

【 施 策 の 方 向 】

【施策の具体化に向けて】

人づくり

リーダーやコーディネーター等として持ち味を活かしながら活動に関わっていく人や、新たな分野や活動にチャレンジする人を増やす「人づくり」に取り組みます。

- ・地域活動を担う人材の育成
- ・定年前の段階から、「第2の人生」に向けて意欲的に活動に取り組める環境の整備
- ・生涯学習の充実
- ・ネットワーク、サポート態勢等の構築

活躍の場づくり

様々な活動に対して能動的に取り組む人がいきいきと輝き、豊富な技術や経験、知識等を発揮できる「活躍の場づくり」に取り組みます。

- ・ボランティア活動等の推進
- ・コミュニティビジネス等の創出
- ・シニア層の豊富な技術や経験等の伝承
- ・成果発表等活動のPR、イベントの実施

シニアで賑わうまちづくり

健康や文化等への関心が高いシニア世代を対象として、幅広い世代と交流しながら人生を謳歌できる「シニアで賑わうまちづくり」に取り組みます。

- ・シニア層と若者が交流するまちづくり
- ・交流拠点の創出
- ・シニアビジネス創出等による消費活性化

上記3つの施策を補完する共通施策

情報を共有するしくみづくり

効果的な情報(事例等のきっかけ)発信により、人と人のつながりを生み出す、あるいは、シーズとニーズを結びつける「情報を共有するしくみづくり」に取り組みます。

- ・地域活動団体の紹介、PR
- ・シニア向け就業、ボランティア情報等発信支援
- ・交流拠点の創出(再掲)
- ・ネットワーク、サポート態勢等の構築(再掲)

高岡市アクティブシニア構想

～市民エネルギーあふれるまちを目指して～

平成 2 5 年 3 月

高岡市

目 次

I	構想のねらい	1
I-1	背景	1
I-2	目的	2
I-3	施策のターゲット	2～3
I-4	“高岡”の強み	3～4
I-5	アクティブになるための課題	4
I-6	目指す将来像（まちのすがた）	5
II	施策の方向	6～11
	高岡市アクティブシニア市民懇談会委員名簿	12
	高岡市アクティブシニア懇談会開催概要	13

I 構想のねらい

I-1 背景

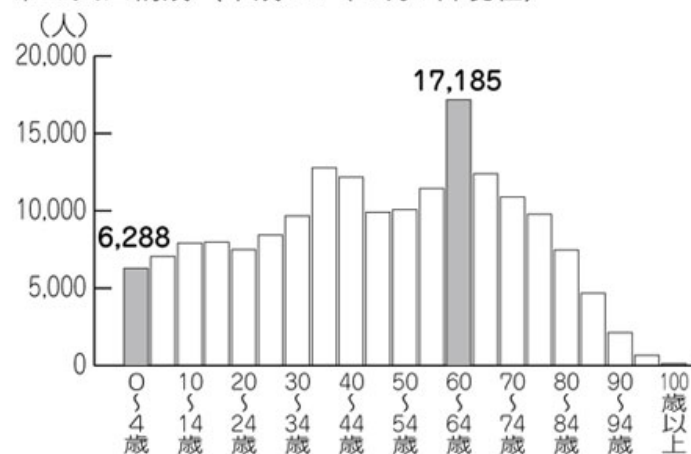
2005年、我が国の総人口は、大正時代の国勢調査開始以来、初めてマイナスに転じました。一方で高齢者人口は急速に増加し、高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は2025年には30.3%に達すると見込まれています。

高岡市においても、平成24年1月1日現在の高齢化率は27.3%となっています。また、人口構成では60歳から64歳のいわゆる団塊の世代が属する層が一番多く、0歳から4歳までの層に対して2.7倍以上とまさに少子高齢化を象徴しています。

団塊の世代を中心とするシニア世代の方々は、高度成長期の新しい文化を創り、アイビールック、アンノン族、ニューファミリーなど、様々なブームやヒット商品を生み出し、常に時代をリードしてきました。また、現代においても、新しい価値観と自由な感覚で、一昔前とは違う活動的なライフスタイルを築いているのではないかと考えます。

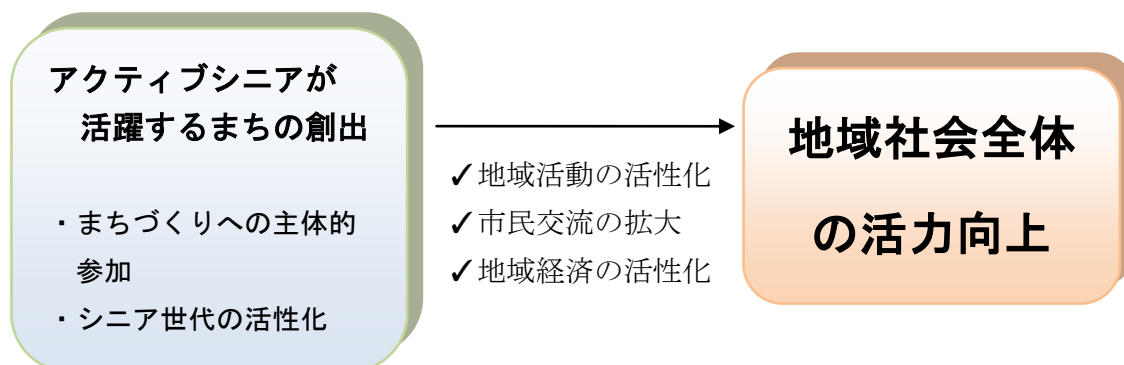
高岡市では、総合計画第2次基本計画に掲げる「共創」のパートナーとして、この世代の方々が活躍できることが、今後のまちづくりの鍵になると考えています。

市の人口構成（平成24年1月1日現在）



I-2 目的

本構想は、シニア世代の方々の豊かな経験、知識や進取の気概をまちづくり等、次の活躍のステージに活かすとともに、高岡という地域の中で、この世代の方々が、能動的・活動的なライフスタイルを送ることを通じて、地域社会全体の活力を向上させることを目的とします。



I-3 施策のターゲット

本構想の施策を展開していくにあたり、ターゲットを次のとおり設定します。

① 年齢が概ね 50 代半ば以上で、これまでの知識や経験を活かして様々な活動に既にチャレンジしている人、あるいはしようとする人の意欲

これまで仕事等で活躍してきた人で、定年後に別の分野でも意欲的に挑戦しようとしている人、あるいは、これまで同様に持ち前の技術等を活かしながら頑張り続けようとしている人の存在が、「アクティブシニア意向調査」(※)にも表れています。その意欲や能力を引き出すために、提供できるプログラムや環境の整備が必要であると考えます。

(※) 「アクティブシニア意向調査」

高岡市内に居住する満 55 歳から 69 歳までの男女を対象に実施したアンケート調査 (平成 24 年 6~7 月にかけて実施、標本数 : 2,500、有効回答数 : 1,016)

② 世代別人口構成の最も大きい層であるシニア世代の方々の消費力や活動力

団塊の世代を中心とするシニア世代は、世代別人口構成の中でも最も大きい層であることから、様々な活動の担い手、あるいは、消費者としても影響力が大きいものと考えます。したがって、この消費力や活動力を施策に反映させる必要があります。

③ 県外の都市部等での勤務を終え、地元である高岡に戻ってきたい、あるいは、地方で高岡ならではの暮らしをしたいというニーズ

高岡市出身で、都市部等で定年を迎え、第2の人生を地元で再出発しようとする人や、新幹線開業等で利便性が高まり、ものづくりや農業等が盛んな高岡にIターン(※)しようとする人が増加してくることが想定され、そのようなニーズを捉えて、シニア世代の人たちが、アクティブシニアとして集まってくるようなまちづくりが必要であると考えます。

(※) Iターン

生まれ育った故郷以外の地域で就職すること

I-4 “高岡”の強み

シニア世代が活躍できるかどうかの視点での高岡の潜在能力は、次のとおりに整理できると考えます。

○歴史・文化的な資産が多い

平成23年6月に「歴史都市」として認定されるなど、特徴的な歴史資産や、万葉集等に代表される文化的な資産が多く、市内外のシニア世代が楽しめる、あるいはいろいろと研究できる対象、環境が十分にあります。

○ものづくりに代表される産業基盤を有している

ものづくりのまちとして、アルミ、銅器等の産業が古くから根付いており、次世代に継承していくべき技術も多く、シニア世代の経験や存在感等を発揮できる土壤があると言えます。

○市民活動が盛んである

高岡では、自治会等のコミュニティ活動をはじめ、市民や企業による地域活動が活発に行われています。また、市民と行政との協働について県内でも先駆けて取り組んでおり、市民が主役となって、いろいろと活動できる環境があります。

○交通の利便性が良い

平成 26 年度末に北陸新幹線が開業することで、首都圏等とのアクセスが良くなることや、名古屋、大阪からの距離感も近いことから、シニア世代の都市圏からの移住、移動が増加するものと考えます。

○富山県第 2 の都市として中核的な都市機能を有している

県西部（呉西）の中心都市として栄え、相応の商業施設、歓楽街等を有しており、市内外のシニア世代が活躍できる、あるいは楽しめる機能を備えているものと考えます。

I-5 アクティブになるための課題

高岡のシニア世代の方々がアクティブになれない課題として、「アクティブシニア意向調査」等から以下の点が指摘でき、克服していかなければならないものと考えます。

○高岡で実際に取り組まれている活動や各種イベント、活動団体等が知られていない

様々な地域活動等の情報発信が機能しておらず、きっかけがあれば活動したいと考えているのに、アクティブになりきれていない現状があるのではないかと考えます。

○地域コミュニティが強いため活動に入っていけない

高岡では地域コミュニティが確立されているという長所がある半面、それが新たに活動したい人にとっては障壁になっていることも考えられ、活動したい人への効果的な情報発信やマッチング機能の充実が課題であると言えます。

○介護等により家庭内での負担等が大きく、活動ができない

アクティブになりたいたくても家庭的な事情でなれず、地域で支え合う仕組み等が機能していないことから、苦勞している人がいることも考えられます。

高岡で介護等のボランティア活動をしている団体等もたくさんありますが、担い手そのものが不足している現状があるものと考えます。

I-6 目指す将来像（まちのすがた）

本構想によって、高岡市としての目指す将来像を次のとおり掲げます。

【アクティブシニア構想で目指す将来像】

「市民エネルギーあふれるまち」

「市民エネルギーは、高岡の活力の源」

市民ひとりひとりが、打ち込めるものをもつことで、そのエネルギーを最大限発揮できるまち・高岡を目指します。



Ⅱ 施策の方向

高岡市では、アクティブシニアが活躍するまちの創出を目指して、シニア世代の活性化とまちづくりへの主体的参加につながる施策を展開します。

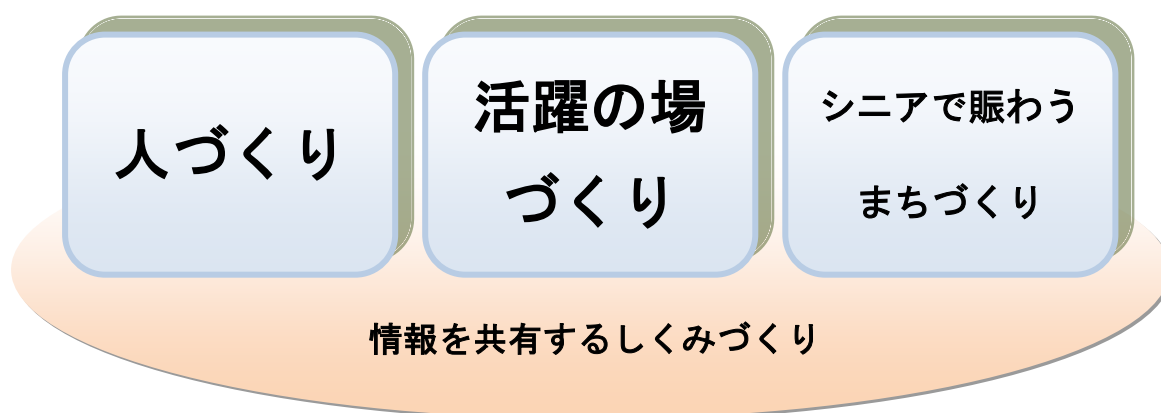
具体的には、

- ・積極的に活動等に取り組むアクティブシニアを増やしていく施策として「人づくり」
- ・アクティブシニアが活躍できる、あるいは必要とされる場の提供、創出に取り組む施策として「活躍の場づくり」
- ・シニア世代が他世代と共にまちの賑わいを構成する「シニアで賑わうまちづくり」

に取り組めます。

更に、上記三つの施策を補完する共通施策として「情報を共有するしくみづくり」に注力します。

「アクティブシニア構想」施策体系イメージ図



○「人づくり」

地域の活動においては、多様な人材・役割が求められています。

リーダーやコーディネーター等として自分なりの持ち味を活かしながら活動に関わっていく人、自分の知識や経験等を活かしながら新たな分野や活動にチャレンジする人を増やす「人づくり」に取り組みます。

《施策の具体化に向けて》

- ・ 地域活動を担う人材の育成
- ・ 定年前の段階から、「第2の人生」に向けて意欲的に活動に取り組める環境の整備
- ・ 生涯学習の充実
- ・ ネットワーク、サポート態勢等の構築

▶地域活動を担う人材の育成

シニア世代が有する豊富な経験と知識を福祉等の地域活動に活かすため、ボランティア等の養成に取り組みます。

また、地域で必要とされる新しいサービスや持続可能なサービスの提供を目指し、ビジネス的視点を取り入れて地域で活動する人を育成します。

▶定年前の段階から、「第2の人生」に向けて意欲的に活動に取り組める環境の整備

現役時代のうちから、定年後のセカンドライフの具体的なイメージを持つことや、いろいろな地域活動（ボランティア、ビジネス等）について知ることは、定年後の意欲的な活動につながる第一歩になると考え、セミナー等を開催することで、「第2の人生」に向けたお手伝いをします。

▶生涯学習の充実

芸術、文化、歴史等幅広い分野で、意欲的に学習できる環境を整備し、生涯を通して学習する人を支援します。

また、学習を極めていくことで、学ぶ立場から教える立場へのステップアップや、学習で得たことを次のステップに活かせるような事例等が生まれることを期待します。

▶ネットワーク、サポート態勢等の構築

様々な活動に対し、きっかけがあればアクティブになれる人を誘う、あるいは、有意義な情報が届くようなネットワークの構築に取り組みます。

また、様々な活動に取り組む際の相談対応等いつでもサポートできる態勢の整備に努めます。

○「活躍の場づくり」

様々な活動に対して意欲的に取り組む人がいきいきと輝き、豊富な技術や経験、知識等を発揮できる「活躍の場づくり」に取り組みます。

《施策の具体化に向けて》

- ・ ボランティア活動等の推進
- ・ コミュニティビジネス等の創出
- ・ シニア層の豊富な技術や経験等の伝承
- ・ 成果発表等活動の PR、イベントの実施

▶ボランティア活動等の推進

知識、技術、経験が豊富なシニア世代が活躍する機会を創出するため、ボランティア活動等社会貢献に取り組みやすい環境をつくります。

▶コミュニティビジネス等の創出

市民懇談会において、ボランティア団体や NPO 団体の活動について「非営利」という側面が誤解され、「無償」にこだわるあまり活動そのものがなかなか長続きしないという現状が指摘されました。一方で、地域社会の抱える課題は増加傾向にあり、担い手そのものが不足している現状があります。

そこで、従来のボランティアや NPO 活動に加え、今後コミュニティビジネスを始めるための情報やノウハウを伝える実践講座を開催する事業に取り組み、コミュニティビジネスの創出に取り組みます。

また、コミュニティビジネスの創出は、地域経済や雇用に寄与するものと考えます。

▶シニア層の豊富な技術や経験等の伝承

シニア世代が長年培ってきた豊富な技術、知識、経験等を指導的な立場で発揮できる機会の創出や推進に取り組みます。

例えば、長年選手としてスポーツに関わってきた人が、競技普及のために指導者として活躍している事例があります。そこで、スポーツに限らず、このような事例をメディア等で紹介すること等で、エネルギーの輪を広げていくことに努めます。

▶成果発表等活動のPR、イベントの実施

趣味やボランティア等地域活動を表現、PRする場（機会）をつくることで、よりアクティブになるための情報、きっかけを提供するとともに、新たな趣味や活動等に一步を踏み出す機会をつくります。

○「シニアで賑わうまちづくり」

健康や文化等への関心が高いシニア世代を対象として、活動的なライフスタイルを築きながら人生を謳歌できる「シニアで賑わうまちづくり」に取り組みます。

《施策の具体化に向けて》

- ・シニア層と若者が交流するまちづくり
- ・交流拠点等の創出
- ・シニアビジネス創出等による消費活性化

▶シニア世代が同世代も含め他世代と交流するまちづくり

シニア層が若者等の他世代と交流しながら、主体的にまちづくりに参加できる環境等を整えます。

例えば、地域活動についても、あらゆる世代が参加することで、その波及効果が高くなるものと考え、ネットワークの構築等が必要になると考えます。

▶交流拠点等の創出

シニア世代を中心に地域で活動する人や団体等が交流できる機会等をつくり、様々な情報を発信、マッチングできる仕組みづくりに取り組みます。

また、活動と活動等がマッチングすることで、いろいろな人を巻き込んでいくようなエネルギーの相乗効果の発揮をねらいます。

▶シニアビジネス創出等による消費活性化

団塊の世代を中心とするシニア世代の消費力に着目し、シニア世代を対象としたビジネス等の創出により、消費活性化につなげていきます。

○「情報を共有するしくみづくり」

効果的な情報（事例等のきっかけ）発信により、人と人のつながりを生み出す、あるいは、シーズとニーズを結びつける「情報を共有するしくみづくり」に取り組みます。

《施策の具体化に向けて》

- ・ 地域活動団体の紹介、PR
- ・ シニア向け就業、ボランティア情報等発信支援
- ・ 交流拠点等の創出（再掲）
- ・ ネットワーク、サポート態勢等の構築（再掲）

▶地域活動団体の紹介、PR

活動に対するきっかけを求めている人に対して、様々な活動への積極的な参加を促すため、地域で活動する団体を紹介するなど、あらゆる媒体を活用して効果的な情報を発信していきます。

例えば、地域の社会活動等を視覚等で訴えることで、きっかけを提供し、人を感化するような波及効果を生み出すことに取り組みます。

▶シニア向け就業、ボランティア情報等発信支援

ボランティアへの関心の高いシニアに対し、効果的な情報発信に努めます。また、働きたいという意欲が旺盛で、高度な技術や経験を有しているシニアに対しては、高岡のものづくり企業等からのニーズも高いことが想定され、マッチング等を支援します。

▶交流拠点等の創出（再掲）

シニア世代が交流できる機会等をつくり、様々な地域活動等に関する情報を発信、マッチングします。

また、活動と活動等がマッチングすることで、いろいろな人を巻き込んでいくようなエネルギーの相乗効果の発揮をねらいます。

▶ネットワーク、サポート態勢等の構築（再掲）

様々な活動に対し、きっかけがあればアクティブになれる人を誘う、あるいは、有意義な情報が届くようなネットワークの構築に取り組みます。

また、様々な活動に取り組む際の相談対応等いつでもサポートできる態勢の整備に努めます。

高岡市アクティブシニア市民懇談会委員名簿

(五十音順、敬称略)

氏名	所属団体・役職等	備考
小松 裕子	富山大学芸術文化学部 准教授	副会長
下田 清隆	(株)野村鉄工所 特別顧問	
杉本 貴信	瑞龍寺夢参道まち衆会 理事	
秦 美代子	子育て支援サークル「ちゃいるどクラブ」代表	
本田 ゆかり	(株)協和総商 アカウントプランナー	
政所 利子	(株)玄 代表取締役	
宮田 伸朗	富山国際大学 こども育成学部長	会長
盛次 律	洋酒亭 河童 店主	
山吉 衛	NPO法人「ちゃれんじ」理事長	

高岡市アクティブシニア懇談会開催概要

回	日 程	主な協議内容
1	平成 24 年 10 月 12 日 (金)	(1) アクティブシニア構想について ・今年度の取り組み ・「アクティブシニア構想」について (2) アンケート結果の速報からの検討課題について (新年度事業の展開、方向性) アンケート結果からの分析
2	平成 24 年 11 月 20 日 (火)	「アクティブシニア構想」の具体化に向けた基本方針
3	平成 25 年 2 月 6 日 (水)	「高岡市アクティブシニア構想 (案)」